

アンチ・ドーピングの目的

**ドーピングは、選手のからだと心をむしばみ、スポーツをむしばむ
公正な競技、記録のために“ずる”やインチキは締めだそう
ドーピング・コントロールは、スポーツの健康診断**

ドーピングの効果については、たとえ、その物質がクスリとしてはほとんど効果のないものであっても（たとえば、乳糖の粉末）、もし選手が、「効（き）く」と信じている場合には、その「プラシーボ（偽薬）効果」によって、スポーツの競技能力が高まることもある。

しかし、クスリは、逆に読むとリスク（RISK：危険）となるように、副作用がある。血友病治療のために行われた血液製剤でエイズが発症した「薬害エイズ」の問題は、記憶に新しい。このように病気や障害の治療で使われた場合ですら副作用が起こり得る。まして激しいからだの活動と強い精神的緊張を伴う競技スポーツでは、重大な事故や長く続く機能障害が起こる。さらに、女子選手では、将来生まれてくる赤ちゃんにも障害を起こすといわれている。また、クスリによる副作用のため、攻撃性が増大するなど心の障害も指摘されている。このように、ドーピングは選手のからだと心をむしばむのだ。

「スポーツは、よろこび、悲しみ、嘆き、感動、感激、満足、期待、不安、怒り、反省、後悔、なぐさめ、連帯感、孤独感など人生で経験するすべての感情を経験できるという意味で人生の縮図」（朝比奈一男、1978）といわれる。社会の中で、スポーツがそしてスポーツに関わっている人々が、大切にされるのは、練習・トレーニング、競技・試合などを通して、こうした多くの経験をもち、すぐれた人間性と社会性と健康な生活感覚を備えていると考えられているからだ。

スポーツは、それぞれ特有のルールの下、公正・公平な状況で、フェアプレイを行うからこそ、その勝負・競技はおもしろく、勝者は讃えられ、敗者には惜しめない拍手が送られる。ドーピングはこうしたスポーツの公正さと公平さをはばむものだ。

たとえば、水泳の競技において、スタートの不正（フライング）、泳法違反、ターンの不正、リレーの引き継ぎの違反があれば、審判・監察官により、即座にあるいは競技直後に失格が言いわたされる。

それは、そうしなければ、公正な競技・記録が保てないからだ。それと同じように、ドーピング・コントロールは、クスリなどを使った不正行為をなくし、公正な競技・記録を確立しようという目的で行われる。ただし、フライングや泳法違反と違って、ドーピングについては、不正の証明と判定が容易ではないので、競技の後、尿もしくは血液を採取し、化学的分析によって禁止物質の検出を行うあるいは採尿が正しく行われているかを監察するという手づきを用いる。

ドーピング・コントロールは、不正行為を行った選手を摘発するために行うのではなく、懸命に練習・トレーニングし続けている、まじめな選手達の権利を守り、その努力と苦勞に報いるために、そして、そのスポーツが健全になされていることを証明するために行われる。つまり、「スポーツの健康診断」（財）日本水泳連盟 前会長 古橋廣之進だ。



（財）日本水泳連盟アンチ・ドーピング委員会

『新²・ドーピングってなに？』

（（財）日本水泳連盟編、1997）より